



# 部落解放への道

## 部落問題について 誤った考え方

### その一

「寝た子を起すな」とか「部落問題は、そっとしておけば自然に解消されるものではないでしょうか。やかましく言うことによっても何も知らない子どもたちにまで差別を教えることになり、かえって差別を広めることになると思いませんか」。

このような意見は昔から現在まで地区内でも地区外でも、よくいわれていることばです。

地区内でこのような意見をのべる人の大部分は比較的経済的に恵まれた人や、社会的地位の高い人たちですが、よく話し合うとこの人たちは差別がないと心から思っているのではなく、むしろ、つらい昔の差別を思い出すので傷口にさわってほしくないという考え方があったり、自分自身の内面にある劣等感や被差別感をカモフラージュするために虚勢をはっているのです。また、地区外の人々でこのような考えをもっている人は、

前にのべたような現代社会の部落差別とは何かということがよくわかっておらず部落の人を、昔の差別的な言葉や手ぶりなどで侮辱することが差別だと考えている人が多いようですが、このように考えている人々には部落問題の本質を正しく理解していただかなくてはなりません。

つぎに「小さな子供は何も知らない純真なものだ、何を好き好んで余計なことを教えるのか、このまま、そっとしておけば年月の経過とともに自然に解決する」という意見もよく聞かれます。しかし、本当にそうでしょうか。小さい子供はたしかに純真でも知りませんが大人で部落問題について何も知らないという人は過去の高知県の調査ではほとんどいないという結果が出ています。いつ、どこで、だれから知らされたか、しかも、この知り方が問題です。部落の人たちのことを差別的に教えられた

ため、心の底に根深い偏見や差別観念を植えつけられている人が多いのです。この人たちも過去には純真な幼年期もあつたはずですが、現在何も知らない子どもであるということは長い差別偏見をもつた大人になるという可能性を持っているということばです。

その生きた事例をあげてみましょう。

県西部のある中学生は作文の中で、(前略)現在でも差別はなくならず表面では見えるけれども、少しもなくなつてはいない。おばあん(おばあさん)が孫に

○○(部落の差別用語)はきたない台所でも平気なんや

○○はくさいで

○○の部落は貧乏人ばかりだから遊びに行つたらいかん

といったことを教えている。なぜ遊んだらいかんやろうか。どこも一般の人と変りないのにどうしてそんなことを教えるんだらうか。

(後略)また、ある高校生は部落問題の感想文で(……)人の話によると、部落民は不潔で色が死人のようにとす黒く、口汚く、けちで性質のよくない人たちがさうだ

(中略)部落出身者との結婚に反対するということは、梅毒をもっていることを知って結婚する人がいないと同じことである……。

なんと、おそろしいほどの偏見

ではないでしょうか。この高校の調査では、これに似たりよつたりの間違った考えをもつた者が千二百人をこえる生徒の中で約三十五名もありました。しかも学校の中で、部落差別を「受けた」「した」「見聞きした」という生徒が、かなりおられます。けつして大人だけの問題ではないのです。また、部落差別は単に偏見や差別意識といった観念だけの問題ではありませ

ん。

現代社会における部落差別は前号でも述べたように日本国民に平等に与えられているはずの市民的権利や自由が、同和地区住民には、きわめて不十分しか保障されていないということが今日の差別であり、そのことが同和地区の貧しさや低位性、後進性をうみだしているのですから「同和教育無用論」「同和対策事業不用論」は、

ちやうど病人を病気でないと診断し、ついには回復不能においやると同じで、危険このうえない誤りを犯すものであり、客観的には差別をいつまでも残し続ける役割を果すものであって、こういう考え方のものが差別であるとい

わざるをえないのです。

★ ★ ★